

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400022		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい裾野	ユニット名	1階
所在地	静岡県裾野市石脇495-2		
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果市町村受理日	平成26年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyouvoCd=2291400022-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の下、職員は入居者様一人ひとりの表情、仕草、言葉などから、その方の思いを探り、その思いを大切に、ありのままの姿に寄り添い、笑顔で安心できる声かけ、その方のペースに合わせた優しい支援をおこなうよう心がけています。生活の一番の楽しみである食事については入居者様の体調によって、又薬に頼らない自然排便を促すための献立、食材の工夫、彩り、器の工夫をしています。又食事をご自身で摂ることが困難になった方には飲み込みの状況を確認しながらとろみをつけたり、食事形態の工夫、ジュースをゼリーにするなど、できる限りご自身の口で美味しいと思っていただけるよう介助させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、霊峰富士を仰ぐ黄瀬川の清流のすぐ左岸に位置し、日当たりも良好な絶好の環境にある。法人の福祉にかける情熱と確かな運営理念に支えられ、それに呼応してホーム独自の理念を定め、更にそれを「毎月の目標」にブレークダウンし、振り返りながら介護に勤しんでいる。開設当初に有った近隣のホームへの多少の誤解も、管理者・職員の日頃の努力が稔り、地域密着型に相応しい良好な関係が構築されている。職員・管理者との信頼関係も築かれており、ここ暫く退職職員が居ない。利用者・家族との関係は、家族アンケートの「感謝の気持ちでいっぱい。」という言葉に象徴されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の運営理念、ふれあいグループ理念を見やすい場所に掲示。共に毎朝申し送り時に唱和し仕事に取り組んでいる。各職員が自己評価表で運営理念に添ったケアが出来ているかを振り返っている。	法人の「敬愛・創造・貢献」の理念を受け、ホーム独自の「優しいぬくもり・・・」をブレークダウンし、今月は「利用者の離設時対策・職員の声掛け・・・」のように定め、共有・復唱・反省しながら介護の実践に取り組んでいる。	今後共利用者のADLの変化、法令・行政等の変化に柔軟に対応していくことが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所より6年目に入り、すっかり地域の方々とも顔なじみになりました。ハーモニカ演奏やカラオケ道具を持参して遊びに来てくれたり、犬の散歩の途中に立ち寄りいただき皆様と楽しく触れ合う時間もあります。	開設当初にあった近隣の多少の誤解を乗り越え、今ではすっかり顔馴染みになり、車椅子ダンスのボランティア紹介他、沢山の広がり繋がり、近隣と利用者・事業所との日常的な交流がうかがえる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや防災訓練に参加し、一緒に盆踊りをしたり、お話をすることにより、認知症の方の理解を深めてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。ホームにおけるケアの取り組みや、入居者様の日頃の様子などをお伝えし、ご家族や近隣の方々から頂いた意見をホームの運営に活かすよう努めている。	2ヶ月に1回着実に開催されており、出席者の中に市議員が2名も居り、前向きな意見をホームのみならず、行政にも反映させている様子は、大変印象的だった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管轄の包括支援センターの方に運営推進会議に出席していただき、率直な感想を聞くなどし連携をはかっている。又裾野市介護相談員の訪問も定期的であり、意見や感想をいただいている。	日常の報告・連絡・相談はもちろんの事、運営推進会議での連携、3ヶ月に一度の市相談員の定期的訪問等で、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベツト柵を使用してる方もいらっしゃるが、ご家族の同意を得ている。建物の入り口は安全のため施錠しているが出たいという希望がある時は出来るだけ静止せず、付き添いの下出ている。	フィジカル・ドラッグによる拘束の他に、スピーチ面で、「ちょっとまって・だつて・すわって・きて」等の「て」で終わる悪い言葉を戒め、良い言葉を探る取り組みも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束「ゼロ」宣言をし全職員が意識して業務についている。又職員の不注意な言動「だめ、だつて、でも、ちょっと待って」などの言葉の暴力も虐待になることをスタッフに伝え、注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネは制度について研修等で学ぶ機会はあるが、現在は対象となる方がいない。今後は研修等で職員も学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書類、重要事項等の読み合わせをし、説明、納得していただいている。入居後も不安や疑問がある時は、充分説明し、その解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において入居者様、ご家族、地域の方々、包括支援センターの方、現場スタッフの参加で意見交換している。又玄関にご意見箱を設置、ご家族の要望、苦情を言いやすい環境をつくっている。	普段から利用者・家族と気楽に意見交換をしやすい雰囲気があり、運営推進会議では「見守りが監視になっていないか?」「家族が利用者と一緒に入居する視点が不足していませんか?」等が話されていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアでのミーティング、月に1度の全体ミーティングにおいて、意見交換をしている。また、定期的に職員の個人面談を行い意見交換を行っている。	フロアミーティングで利用者のカンファレンスを、全体ミーティングでは業務の改善等に取り組んでいる。職員との対話は率直かつ活発で、意見が活かされ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入。その結果を必ずフィードバックし、意見交換。やれば必ず評価してもらえ、やりがいのある、働きやすい環境がつかれるように配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職位に応じた研修や全職員向けの研修が定期的で開催されている。管理者は参加できるよう勤務を考慮している。又社外研修の情報も提供、積極的な参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネは月1回の地域調整会議に出席し、研修や事例検討会を通して他施設職員と交流を持ち、相互の活動などの情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴を把握し、アセスメントをスタッフで共有している。ご本人の変化、言語だけでなく態度・仕草からも観察し、寄り添い、傾聴を大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からもご本人の今までの様子を傾聴し、要望をアセスメントしている。ホームに預けていることで遠慮しない関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の的確な状況判断と、優先順位の把握をし、ご家族、嘱託医とも相談しながら福祉道具、訪問リハビリ、訪問マッサージ等を導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の出来ること、出来ないことの把握をし、その方に合った役割を見つけ、無理のないよう職員と一緒に行動するようにしている。又やっていたことには感謝の気持ちを心から伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に参加できる行事を催したり、誕生会にもご家族に参加していただき、一緒にお祝いしている。ご家族はいつでも面会が出来、職員とご家族もよく話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族面会時や、友人、職場仲間面会時の写真を居室に飾り、それにまつわる思いを大切にしている。又その方々が訪問しやすい環境づくりを大切にしている。	訪問した友人等の写真を飾り、再来訪しやすいような雰囲気作りや、家族・ボランティア・職員と連携して懐かしいスーパーでの買い物や各種行事への参加等、懐かしい場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握、スムーズに関われるよう職員が中に入り、皆が仲良く支えあっている関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要となり転居された方や、ご家族の意向で退所された方が次の施設に入居する時には、ホームでの情報を提供している。又亡くなられた方の一周忌には自宅へお花を届け、故人を偲んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いやご家族の意向を聞き、センター方式を利用してカンファレンスで検討している。困難な場合には、あらゆる情報を収集して、24時間シート等、様々な方法で意向の把握に努めている。	「利用者の思いを知ろう」と様々なロールプレイを通して利用者と同じ目線で思いを共感し、理解を深める様取り組みをしている。家族アンケートでは「職員は本人の要望を分かっている」という声もきかれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでのアセスメントを共有し、生活歴等いつでも個人カルテで確認できるようにしている。家族や関係者からの情報に基づき、検討、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察に努め、体調変化や心理的ストレスなどにも気づくようにし、介護記録に記載し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向はもちろんのこと、医師、看護師、歯科医師、歯科衛生士、訪問リハビリ、家族、職員の意見も取り入れながら計画作成している。	本人・家族と職員の気づきを含めた情報を基に作成した介護計画は、評価・課題分析によって更に現状に即したものに直直されている。ミーティング記録からは職員の細やかな観察と配慮の様子がうかがわれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人記録、ワーカー日誌に記入し、1日2回の申し送り、仕事に入る前には記録を確認することにより、情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嘱託医以外の病院受診など、ご家族が都合で行けない時は、職員が同行している。また、買い物や外出など、出来る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の文化祭の見学やお祭りの参加、スーパーの買い物、外食に行っている。また、一般のボランティアの導入をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の嘱託医往診。その他眼科、耳鼻科、皮膚科等、ご家族の希望があれば受診対応している。その場合嘱託医との連携もとれ、紹介状をいただいている。	ほとんどの利用者が嘱託医を主治医として月2回の往診を受けている。家族・嘱託医との連携が良いことは自負しており、受診前の情報提供をしたり、処方変更等は職員に共有され適切な医療支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの健康状態を把握し、看護師が訪問したときはそれを的確に伝え、適切な看護が受けられるようにしている。緊急時には24時間体制で連絡対応が可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関への情報提供を行っている。又ソーシャルワーカーとも連携をとり、退院後はホームでの生活が可能か等の情報交換をしている。退院時はホームで安心して過ごしていただけるよう病院とのカンファレンスをおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に生前の事前確認書をいただき、重度化した場合のご本人、ご家族の意向を確認している。又体調の変化があった場合にはDR、ご家族、施設側とのムンテラをおこない終末期の方針の確認と共有をしている。	家族・嘱託医と話し合い、支援している。職員は細やかな観察で変化をキャッチし、情報を共有し対応している。終末期に家族が2週間泊まり込み、共に取り組んだ例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ全体で緊急時の対応方法や高齢者に多い病気などの研修をおこない勉強している。緊急時にはすぐに嘱託医に連絡がとれる体制、夜間は管理者、リーダーがすぐ駆けつけられる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、避難訓練・通報訓練・消火訓練をしている。また地域防災訓練への参加もしている。全社で「緊急火災通報システム」を導入。緊急時には消防以外に全職員宛に緊急メールが送られる	地域防災訓練に利用者も5名位参加して介護施設について啓蒙し、理解も得ている。法人一丸の連絡システムがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の言葉かけで接するようにし、名前の呼び方についても充分注意している。また、入居者の居室に入る際は必ず、ご本人の了承を得てから入っている。	利用者が遠慮することなく暮らせる、また利用者を否定することなく、利用者の権利を守る視点を忘れないようにミーティング等で確認し、実践している。また職員間も相手を認め合うポジティブ志向がうかがえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望や自己決定を尊重している。言いやすい雰囲気作り、どちらが良いか選択できるように働きかけている。又思いを伝えられない方には表情や仕草を観察し思いを推察するよう努める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や体力、季節やお天気も考慮し、無理強いしないで一人ひとりのペースに応じた過し方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の訪問美容院にてカット。自分の好みの洋服を選んでおしゃれができるという方は少なくなったがご本人、ご家族の思いも大切にして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理することは難しくなったが、野菜の下ごしらえや配膳、片付けは一緒にしている。又ご家族やご近所からいただいた旬の野菜を調理提供したり、行事に合わせた献立で楽しむ工夫をしている。	食事に対してはこだわりを持って、食器の工夫や彩り豊かな献立で美味しく食べてもらえるよう努めている。近隣の方から果物や野菜を戴くことも多く利用者は前処理をしたり、野菜と共にご好意をも味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水になりやすい方には水分量チェック、飲み込みにくい方には、ゼリー、とろみで提供している。また、食事量のチェック、形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。週に1回、歯科衛生士の訪問があり、専門的に口腔内チェック、義歯の状態チェック、口腔体操等をしている。又歯科医師の往診も定期的におこなわれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握し、その方に合ったパターンでトイレへの声かけ、その方に合った排泄ケアの配慮、自尊心を傷つけないケアを心がける。	食事と排せつはケアの基本であり、清潔で気持ち良い排せつのために食や運動も含め支援している。適切な声掛け、誘導によりトイレでの排せつを促し、おむつは一枚でも少なくなるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の量や形態を確認し、水分強化したり、運動強化したりしながら、服薬も調整している。薬に頼らず食材の工夫、バナナ、牛乳、ヨーグルトなどで自然排便ができるよう考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本に、個々の希望に合わせた支援を行っている。また、重度化しても職員二名で対応し、安全に入浴できるように支援している。	気持ち良く入浴してもらう方法として歌を歌ったり入浴拒否には利用者と周波数を合わせて気が向くよう工夫している。入浴困難な利用者も職員二名があ・うんの呼吸で安全な入浴に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに応じて午睡や休息をとっていただいている。又快適な安眠や休息が出来るよう居室内の温度調整、清潔なりネン提供を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個人の服薬を把握し、服薬が変更した場合には、よく観察し副作用が強い場合には、医師に相談している。社内研修の薬学講座に参加、薬の効能、副作用についても学んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせて、掃除や片付け等の役割を持っていただいている。また、その方に合った出来ること、楽しめることを探していき、無理強いせず職員と一緒にやっていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の希望にそって外出することはむつかりなっているが、お天気の良い日は出来るだけ外に出て体操、レク、近所の散歩をしている。又誕生日には特別な日として外食、おやつ外出もおこなっている。	庭にはベンチがあり、周辺には散策路もあり、希望や天候に合わせて戸外に出ている。家族と散歩したり毎週自宅へ帰る等家族と連携して取り組んでいる。普段の散歩や地域の行事にも積極的に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方はいない。必要に応じてご家族に連絡し、購入していたり、立て替え金にてこちらで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、職員が仲立ちして電話をかけることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に毎朝掃除を行っている。清潔感を保ち、不快な匂いがないように空気の入替えを行っている。季節に応じた掲示物の作成をし、時季のお花も飾っている。	利用者の手による絵画は季節ごとに展示替えされ、手作り作品や写真も飾られている。日当たりのよい場所にソファを置き、寛ぎの場が設けられている。利用者も関わる清掃や職員が行う消毒により、清潔で居心地の良い共用空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファを配置している。また気の合った同士で話し、ゆったりと生活出来る様な環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇の持ち込み、家族の写真飾っている。動線を配慮した家具の配置を行い、安全で居心地よく過ごせるよう工夫している。	入所時に馴染みの物の持ち込みをお願いし、大切な物を身近に置いて安心して暮らせるよう家族と連携している。混乱を防いだり快適な空調のため、個々に応じた工夫で居心地良く過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室入り口に名前を掲示。廊下や階段には手すりがあり、自由に行き来できるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400022		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい裾野	ユニット名	2階
所在地	静岡県裾野市石脇495-2		
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果市町村受理日	平成26年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2291400022-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、職員も笑顔で、いつでも気軽に面会に来ていただいたり、立ち寄っていただけるような雰囲気作りを心がけています。実際にご家族様の面会やご近所のお友達、兄弟・姉妹の面会も多くあります。各フロアでケア目標を立て、それに添ったケアに努めています。また、入居者様の気持ちを理解するために、ロールプレイも行っています。入所当時よりも介護度が上がった方もいらっしゃいますが、重度化しても住み慣れた環境で穏やかに過ごしていただけるよう、ありのままの姿を受け入れ、ご家族や囑託医との連携を密にとりながらきめ細やかなケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の運営理念、ふれあいグループ運営理念を見やすい場所に掲示。共に毎朝申し送り時に唱和し仕事に取り組んでいる。各職員が自己評価表で運営理念に添ったケアができているか振り返っている。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所6年目に入りすっかり地域の方々と顔馴染みになることができました。施設行事の時は駐車場を提供してくれ、お祭りの時は席の確保、新鮮な野菜をいただいたりと支えていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りや防災訓練に参加し、一緒に盆踊りをしたり、お話することで認知症の方の理解をお願いしている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回定期的におこなっている。ご家族からの意見、区長さんやボランティアの皆様にも参加していただき、感想や意見を伺い、より良い施設運営に繋がるようしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管轄の包括支援センターの方にも運営推進会議に参加していただき、ホーム内の様子や率直な感想やアドバイスをいただいている。又裾野市介護相談員の定期的な訪問もあり、皆様の日頃の様子を見ていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの柵を使用してる方もいらっしゃるが、ご家族の同意を得ている。建物の玄関は安全のため施錠している。出たい希望がある時は静止するのではなく、職員付き添いの下出ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力的な行為だけでなく、職員の不注意な言動も皆様の心を傷つけ虐待になってしまふことがあるということを職員が認識し、人権を尊重するケアに努めるようしている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネは研修等で制度について学んでいるが、現在は対象になる方がいない。今後は職員も研修等で学習していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書類、重要事項等の読みあわせをおこない、説明、納得していただいている。入居後も不安や疑問がある時は充分説明し、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、入居者様、ご家族、地域の方々、包括支援センターの方、現場スタッフの参加で意見交換している。又玄関にご意見箱を設けご家族の要望・苦情等を表わしやすい環境をつくっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各フロアミーティング、毎月の全体ミーティングでスタッフと意見交換し、提案を聞く機会を設けている。又キャリアパス評価時にスタッフと面談し、意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入。その結果をフィードバックし意見交換。やれば必ず評価してもらえ、やりがいのある働きやすい環境がつけられるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職位に応じた研修や全職員向けの研修を定期的に開催。管理者は順番に参加できるよう勤務に配慮している。社外研修の情報も提供し積極的な参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネは地域の調整会議に出席し、研修や事例検討会を通して他施設職員との交流を持ち、相互の活動等の情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活歴を大切に、アセスメントをスタッフで共有している。又言葉からの訴えばかりでなく、表情や仕草からもその方の訴えをくみ取れるよう観察し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報を共有し、面会時等ご家族の不安や要望を傾聴。ご家族が何でも言いやすい雰囲気づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向も聞きながら、優先順位の把握をし、嘱託医とも相談しながら福祉用具、訪問マッサージ等の導入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の出来ること、出来ないことの把握をし、無理強いせず、その時の体調や気分を見ながら、家事や掃除などの役割を持っていただき職員は寄り添い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に参加できる行事(敬老会、運動会等)を催したり、誕生会にはご家族にも参加していただき一緒にお祝いしている。又ご家族が郷土料理を職員と一緒に調理し提供することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしている。カラオケ仲間が来てくれ一緒に好きだった歌を唄ったり、散歩途中にお姉さまの家に立ち寄りお話をして過ごすこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お天気の良い日は両フロア合同で外でお茶を飲んだり、体操したり、レクを楽しんでいる。一人で孤立しないよう、職員が中に入り、関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為が必要となり転所された方や、ご家族の意向で退所された方が、次の施設に入所される時はホームでの情報を提供している。又亡くなられた方の1周忌にはお花を届け、故人を偲んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を聞き、困難な場合は日頃の様子を観察しながらあらゆる方面から検討。ご本人の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に、入所時にセンター方式、私の基本シートを記入していただき、生活歴の把握をおこない、皆で共有している。又在宅時のケアマネさんからの情報もいただき把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察に努め、身体的変化、精神的変化の把握に努め、介護記録に記載、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向はもちろんのこと、医師、看護師、歯科医師、歯科衛生士、家族の意見も取り入れながら、計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人記録と、ワーカー日誌に記入し、1日2回の申し送りをしている。スタッフは記録を確認し情報共有、業務開始するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嘱託医以外の病院受診等ご家族が対応できない時は職員が同行。又嘱託医紹介で往診もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の文化祭の見学や近隣の神社のお祭り、障害者施設の行事に参加、ハーモニカ、手芸、車椅子ダンスなどのボランティアさんの導入をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の嘱託医往診。又入居前よりのかかりつけ医の受診希望があれば受診していただく。又その場合嘱託医との連携もとれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の入居者の健康状態の把握をし、グループホーム訪問看護師、嘱託医看護師に的確に伝え、適切な看護が受けられるようにしている。緊急時には24時間体制で連絡対応が可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関への情報提供をしている。又ソーシャルワーカーとも連携をとり、退院後はホームでの生活が可能か等の情報交換をしている。退院時はホームで安心して過ごしていただけるよう病院とのカンファレンスをおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても住み慣れた場所で暮らしていただき、ご本人、ご家族の希望があれば看取りも出来ることを嘱託医を交えたムンテラで説明。昨年4月ターミナルケアで看取りをさせていただきました。ご家族に見守られながら穏やかな最期をむかえられました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には、24時間すぐに医師に連絡ができる体制になっている。救急搬送する場合も管理者、リーダーに連絡し、すぐに駆けつける体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、避難訓練、通報訓練、消火訓練をしている。又地域防災訓練にも参加している。全社で「緊急火災通報システム」を導入。緊急時には消防以外に全職員宛に緊急メールが送られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は人生の先輩であるということをお頭に置き、支援をおこなうよう努めている。言葉使いや名前の呼び方についても十分に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を日頃から職員に伝えるよう、信頼関係を築き、言いやすい雰囲気作りをしている。又こちらからの押し付けではなく自己決定できるような声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や体力、季節やお天気も考慮し、一人ひとりのペースに応じた過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度の訪問美容院にてカット。自分の好みの洋服を選んでおしゃれをするという方は少なくなったが、ご本人、ご家族の思いも大切にして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け、色合い、季節を感じることでできる食材を選び、提供している。近所、ご家族からいただいた食材で調理、提供することもある。食後は食器ふきやテーブルふきを一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水にならないよう水分量チェック、嚥下の悪い方にはゼリーで水分補給、血圧の高い方、糖尿病の方、ミキサー食の方等、一人ひとりの状態に合わせた食事支援をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをおこなっている。自分のできる方は仕上げを手伝っている。必要に応じて歯科医師の往診、週1回歯科衛生士による口腔ケア、口腔体操、その方に合った口腔ケアの方法を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った時間での声かけ、誘導をおこなっている。又自尊心を傷つけない排泄ケアを心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の量や形態の確認、水分強化や運動、ヨーグルトや牛乳、バナナ等で排便を促しているが、下剤の服用や訪問看護師の敵便に頼ることも多くなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本に、個々の希望に合わせた支援をおこなっている。寝たきりの方にも2人対応で安全に気持ちよく入浴していただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに応じて午睡や休息をとっていただいている。又、快適な安眠や休息ができるよう居室内の温度調整、清潔なりネン提供を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内研修の薬学講座に参加し、薬の効能、副作用についても学んでいる。職員は入居者の服薬内容を把握し、薬の変更があった場合にはよく観察し、変化があった場合はドクターにすぐ報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った出来ること、楽しいことを探し、無理強いせず、職員も一緒にやっていく。又その方の趣味のハーモニカを吹いていただき、その伴奏で皆で大好きな歌を唄うなどの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の希望にそって外出することはなかなか難しいが、お天気の良い日は1F、2F合同で外でのラジオ体操、レク、近所の散歩をしている。又誕生日には特別な日として馴染みのおすし屋さんやおやつ外食をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方はいない。必要に応じてご家族に連絡し、購入していたり、立て替え金にてこちらで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、職員が仲立ちして電話をかけることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、入居者と一緒に掃除をしている。清潔感を保ち、不快な臭いがないよう、空気の入替えをしている。外出したときの写真や、入居者のお一人が描いた油絵などを飾り、なじみの空間をつくっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファがあり、気の合った同士がお話したり、テレビを観たり、歌謡曲のDVDを観て唄ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から自分が使っていた家具を持ち込み、写真を飾ったり、テレビを置いたりして、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室前には名前を掲示し目印もつけ、トイレや風呂の表示や矢印により間違えることのないよう工夫している。1階に降りる際には階段が危険のため柵をしているが、自由に行き来ができています。		